

凌霜

りょうそう

郡上市教育理念

「凌霜の心で拓く明日の郡上市」

「凌霜の心」高い志と不屈の精神・感謝の心

『東氏入部800年・古今伝授550年祭』

広報郡上3月号では、篠脇城跡からの出土品についてご紹介しました。この篠脇城の主こそ東氏です。

東氏入部800年

東氏は、鎌倉時代から室町時代にかけて約340年間、郡上郡山田庄（現・大和町）を中心とした八幡町・白鳥町の一部を拠点に、一帯を治めた領主一族です。もとは、下総国（現・千葉県）の有力武士団・千葉氏の一族でした。源頼朝から実の父のように慕われた千葉常胤の六男・胤頼が、東庄という領地を与えられたことから「東」と名乗るようになります。東氏の初代です。

3代・東胤行の代には、承久の乱が起きます。この戦いで、胤行は鎌倉方として大きな手柄を立て、郡上郡山田庄を加領されます。これが郡上東氏の始まりです。

この承久の乱が起きたのが1

221年で、ちょうど800年前のことです。

古今伝授550年

天皇などの命令で編集される「勅撰和歌集」に和歌が1首でも載ることは、この上ない名譽でした。その「勅撰和歌集」に東氏一族からは、72首もの和歌が選ばれています。このことから、東家は和歌に優れた武家歌人の家であると、当時の人々にも認識されていました。特に郡上東氏9代・常縁は、「古今伝授の祖」として知られます。

平安時代半ばに成立してから、江戸時代の終わりまで、和歌の教科書とされた『古今和歌集』。ここに載せられた和歌の解釈などについて、師が弟子に秘伝することを「古今伝授」といいます。常縁は宗祇に幾度かに渡って古今伝授をしています。その一回目が行われたのが1471年のことで、今から500年前になります。

今年800年・550年の節目の年

今年東氏が当地を加領されるきっかけとなった承久の乱から800年、東常縁から宗祇への古今伝授から550年の二つの節目が重なっています。

東氏というと、大和町のイメージが強いですが、宗祇水（八幡町）、乗性寺（美並町）、千葉家のいろり火（明宝）など、市内各所にゆかりの場所があります。また、大鷲退治伝承がある鷲見氏は、東氏とともに各地を転戦するなど、東氏は郡上各地の武士たちとも交流がありました。

これらのことから、令和3年度は、「800年・550年」祭として、様々な催しを企画していますので、中世の郡上をより深く知っていただく機会にしたいだけば幸いです。ぜひご参加ください。詳しくは、随時ご紹介していきます。



▲東常縁(乗性寺蔵)

地域包括支援センターだより



郡上市地域包括支援センター

高齢者を見守る地域の事業所

「一人暮らしの高齢者の家に新聞を配達したら、数日間もた

まっていた。」「お店によく来てくれる高齢者のお客さんの体調が悪そう。」いずれも実際に地域包括支援センターに連絡があった話です。連絡は、「郡上市高齢者等見守り支援活動に関する協定」を締結した「見守り協力事業所」からでした。通常業務の範囲内で、高齢者等のいつもちがう様子に気づいた際に、連絡するようお願いしています。協力事業所から連絡を受けた後、すぐに様子を伺い、無事安全を確認できたことがあります。地域で見守るみなさんの一員として、協力事業所の活躍があります。

293の協力事業所

平成27年度より始まった事業で、様々な業界の事業所が見守りのネットワークに加入しています。郵便、移動販売、配達、金融機関、電気、ガス、水道、商店、自動車整備、理容・美容など高齢者が関わる様々な事業所が見守り活動を行っています。令和2年度末で293の協力事業所が「郡上市高齢者等見守り支援活動に関する協定」を締結しています。

※市のwebサイトで公開中

多様な見守りで安心な暮らし

多様な人たちによる見守りがあることで、安心して暮らすことができます。見守り活動支援に関する問い合わせは、地域包括支援センター（☎67・0008）までご連絡ください。また、見守り協力事業所への加入を検討いただける場合もご相談ください。



車両や事務所など、まちで見守り連携協定のロゴをつけてみてください。